教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10－8
兵庫県教職員組合
発行人 山名幸一
編集人 川原芳和
電話 050（3538）2346
1部7円　年定価280円
（組合員の購読料は組合費の中に含む）

2010/1・11
No. 1758

2面

・「ネットワークで子どもを育む
―その実践とこれからの課題―」
ひょうご教育フェスティバル
子どもの育ちを考えるシンポジウムより

教育を中心とする民主的な社会の実現をめざし

みずおか・なたにや 参院選の必勝を！

2010年兵教組旗開き

1月8日、ラッセホールで

1月8日、兵教組の新春旗開きがラッセホールでおこなわれた。オープニングは、恒例の貞松・浜田バレエ団のバレエで華やかな舞台が飾られた。また、各支部、連合兵庫、労働団体や自治体の代表者など、およそ220人を迎え、代表者より祝辞をいただいた。

主催者あいさつで、兵教組山名幸一委員長は「昨年夏の総選挙では、私たちの悲願である政権交代が実現した。勤労者、生活者の視点に立った新しい鳩山政権は、マニフェストの実現をめざしながらも、旧政権の残務整理もあわせて、まさに生みの苦しみといった状況ではないか。しかし、私たちは新政権の応援団として温かくその推移を見守り、私たちの立場からの提言や発信をしていきたい。

山名幸一委員長

2010年度の政府予算では、教育の分野において、子ども手当の実現、高校実質無償化、社会保障の充実などが上げられる。中でも、7年ぶりの純増となる4,200人の教職員定数の改善、教員免許制度や全国学力学習状況調査の見直しなど、『コンクリートから人へ』の第一歩ともいうべき政策は大いに評価したい。この新政権の基盤を安定したものにするためには、次の参議院選挙が大変重要。連合がめざす福祉型社会、合わせて教育を中心とする民主的な社会の実現をめざして、力強く2010年の歩みを始めたい」と組合員の決起を訴えた。

小西清一書記次長

来賓を代表し日教組小西清一書記次長は「2010年度の政府予算案の中でも、文部科学省関連の予算について、義務教育費等教員特別手当という教員特有の手当の削減案が出された。06年の小泉政権時代の骨太方針や当時成立した行革推進法の中での公務員の人件費削減の中でこの賃金抑制が推進され、いわば負の遺産の結果として今回の予算に反映されてしまった。日教組としては、非常に悔しい思い。来年度以降、復元にむけ努力する。

先日おこなわれた日教組の旗びらきでは、川端文部科学大臣から来賓の祝辞をもらい、政権が変わったという印象が強い。教育予算全体と子どもたちの教育に直接関わりある文教予算の対前年比の伸び率は過去30年間で最大。今の政権が教育を大事にしようとしている表れだろう。これからの教育を良くするためには、これからが正念場。夏の参議院選挙は日教組にとっても重要な闘い。比例区なたにや正義、兵庫選挙区みずおか俊一の必勝に向けともに頑張っていこう」と呼びかけた。

森本洋平会長

連合兵庫の森本洋平会長は「バッシングなどの流言に惑わされることなく、学校と家庭と地域が一体となり、心豊かで思いやりといつくしみのある子どもたちを育てていただきたい。

連合兵庫は引き続き政策制度課題の実現にむけとりくむ。2010年の春闘では、全力を挙げて交渉にとりくみ、7月の参議院選挙での必勝を期したい」と述べた。

井戸敏三知事

自治体からは、兵庫県の井戸敏三知事、中村三郎神戸市副市長をはじめ多数の方々が出席した。井戸知事は「阪神・淡路大震災から15周年を迎える。これは言うまでもないが、15歳未満が震災を知らない。また、新たに転入してきた人を含め、3分の1程度が震災を経験していない方々だと言われている。その中で、もう一度あの悲惨な状況を振り返り、今後の危機管理の社会づくりに活かしていく節目の年でもあり、震災での経験をいかしたEARTHの活動も展開している。このような貴重な体験や経験を全世界に発信していくことが、15年目の私たちの役割ではないか。

また、兵庫では教科担任制度を小学校で導入してきており、2010年から2012年には全面移行が出来るように協力をお願いしたい。また、トライやるウィークなどの体験教育は兵庫県の教育の大きな柱。兵庫の教育は、学校の先生方のリーダーシップのもと、地域と家庭が一体となり進めている。このような体験教育の一定の評価作業を今年度考えている。柔軟に現実に対応できる、自主的で行動力のある子どもたちをいかに育て上げていくか、その中核を兵教組に担って頂いている」と話し、兵教組のとりくみに期待を寄せた。

辻泰弘参議院議員

政党を代表し、民主党兵庫県連常任顧問の辻泰弘参議院議員は昨年の衆議院選挙の勝利を振り返り「やはり生身の人間の幸せを作る論理は競争の論理ではなく、共に生きる共生の論理でなければならない。そこに根ざした運動でなければならないし政治でなければならない。

今年の参議院選挙は、働く立場、庶民の立場に立った政治を衆参ともに盤石のものにする大きな意義を担った選挙。どうか皆様方の絶大なるご支援を兵教組出身のみずおか俊一さんをはじめとする、なかまによせていただきたい」と語った。

子どもたちをしっかりと育んでいくために

「政治・行政の力」も必要

水岡俊一参議院議員

皆さん方にご支援を頂き、昨年の政権交代が実現しました。新しい政権が何をめざし、どんな政治を作って行くのか。様々な議論は有るでしょう。

これに対し、私は、キーワードとして、「雇用」、「環境」、「子ども」ではないかと思っています。兵政連議員のなかまが、日々教育現場のなかまの声を聞きながら、行政にその声をとどけているわけです。しかし、それは単に教育現場ということではなく、日本の将来を担う子どもたちを、私たちの手でしっかりと育んでいくためには、行政の力が必要だという思いでいっぱいなのです。日本の宝、日本の将来を担っていってくれる子どもたちを、しっかりと支え、育みたい。そのことを皆さんとともに邁進していきたいと思います。

7月に2期目の参議院選挙に挑戦します。これまでの5年半、皆さんのご支援をいただき、まだまだ不十分、未熟者ではありますが、これまでの積み重ねを、ぜひとも次の6年間に活かし、皆さんのお役に立ちたいと思います。引き続き、最大限のご支援をよろしくお願いいたします。

☆

新・終身共済（終身生命共済）

死亡・高度障害を一生涯にわたって保障。解約時には解約返戻金をお支払いします。
ご契約は一時払型と月払型の2種類があります。

一時払型　まとまった資金を生かして一生涯の保障を !!
もしも途中で解約したら予備資金として活用できます。

契約例
基本契約：300万円
契約年齢：40歳
一時払掛金額 1,575,480円　基本契約300万円（生涯保障）
〈もしも解約したら〉解約返戻金 掛金との差額
3年後 1,597,590円 +22,110円
5年後 1,645,290円 +69,810円
10年後 1,769,280円 +193,800円
＊解約以後の保障はなくなります。
＊契約後、短期間（3年未満）で解約された場合は、解約返戻金が払い込んでいただいた掛金を下回ります。

保障期間
契約日から終身
掛金
一時払掛金は契約年齢、性別で変わります。
●70歳まで契約申込できます。
共済金額
契約年齢が16～60歳の場合
…100～2,000万円（10万円単位）
契約年齢が61～70歳の場合
…100～500万円（10万円単位）

月払型　掛金はご契約時のまま変わりません !（払込は60歳で終了）
定期生命特約をつければ60歳まで、より厚い保障が得られます。

契約例
基本契約：300万円　定期生命特約：700万円
契約年齢：30歳
●月払掛金6,814円　払込期間30年間（60歳払済）
（掛金払込累計額2,453,040円）
定期生命特約 700万円（60歳まで）
基本契約300万円（生涯保障）
〈もしも解約したら〉解約返戻金
60歳 2,110,230円
80歳 2,639,910円
＊解約以後の保障はなくなります。
＊契約後、短期間で解約された場合の解約返戻金は、ごくわずかとなります。

保障期間
基本契約…契約日から終身
定期生命特約…契約日から60歳まで
掛金
月払掛金は契約年齢、性別で変わります。
●55歳まで契約申込できます。
●月払掛金額を軽減できる頭金併用月払もあります。
共済金額
基本契約
…100～2,000万円（100万円単位）
定期生命特約
…100～1,000万円（100万円単位）
●基本契約＋定期生命特約で2,000万円まで契約できます。

※上記は2010年1月1日現在の内容を掲載しています。

資料請求・お問い合わせは　教職員共済生活協同組合兵庫県支部事業所　FAX：078-221-1199 TEL：078-221-9730　住所：神戸市中央区中山手通4丁目10-8

教職員共済

＊この広告は新・終身共済の概要をご説明しています。ご契約にあたっては各共済のパンフレットおよび重要事項等説明書（契約概要・注意喚起情報）をご覧いただき、制度内容をご確認ください。

承08-企-111(0903)

パネルディスカッション

ネットワークで子どもを育む

― その実践とこれからの課題 ―

子どもの育ちを考えるシンポジウムより（抜粋）

11月14日、兵庫教育文化研究所、兵庫県教職員組合と文科省認可財団法人こども教育支援財団、総合教育研究財団との共催で、第59次兵庫県教育研究集会記念事業として「子どもの育ちを考えるシンポジウム」がおこなわれた。

Ⅰ部の実践報告に引き続きⅡ部は見澤光徳さん（小学校教員）、吉田明世さん（児童家庭支援センター・心理士）に加え、本多修さん（武庫川女子大学）、八木修司さん（関西福祉大学）らのパネリストが、勝田麻津子さん（総合教育研究財団・主任研究員）の進行で、参加者からの質問や意見、感想のアンケートに答えた。

（11月14日、丹南中体育館にて）

子どもをはぐくむネットワークづくりのキーワード
育て直し、保護者・家庭支援、温かいネットワーク

Ⅱ部

※Ⅰ部でおこなわれた見澤さん・吉田さんの実践報告を教育ひょうごNo.1756にて掲載。この実践報告を受けおこなわれたⅡ部の模様を一部抜粋にて紹介する。

本多修さん
（武庫川女子大学）

子どもにかかわる中で、学校の先生も施設の先生もエネルギーを吸い取られているという思いをしているのではないか。吸い取られたエネルギーはどうやって回復するのか。先生たちがお互いに自分の感情を交流する中から、もう一度エネルギーを生み出しているのではないか。私たちは「温かいネットワーク」を持つことができているのか、この温かいネットワークづくりがとても大事だと思う。

「謝れる子」になるために

万引きという問題行動一つを例にとってみても、「謝る」ということが子どもにとってどれだけ大切なことかと思う。親が自分のために頭を下げる。そして自分も頭を下げて謝る。最近の子どもたちは自尊感情が低く、謝れば謝るほどに自分が悪いと確認するだけになってしまう。しかし、臨床心理学では、「謝る」ということは、謝った「行為」が悪いのであって、「謝ることのできた自分」は良い子に戻れると考える。そして一緒に頭を下げてくれる親の姿に、子どもはほっとするのである。

Ⅰ部で「施設の職員が一緒に頭を下げる」とあったが、これはとても大事なこと。子どもの保護者である、親、学校・施設の先生が一緒に頭を下げることで、子どもの罪悪感がとれ、「謝れる子」になれるのではないか。

自己イメージを回復させる

虐待を発見することは難しい。子どもは親をかばうからだ。この親をかばいたいという気持ちと、施設から虐待をする親元へ帰りたいという気持ちは似ている。親をかばうということは、自分が親から見捨てられたくないということであるため発見するのは難しい。

虐待については以前から世代間伝達が言われており、精神医学の言葉で反復脅迫というものがある。虐待を受け育った子どもは、大人になって自分の子どもに虐待をするといったものだが、これは、自分はいい子なんだと、自己イメージをどう回復させることができるかで変わってくる。

◆

八木修司さん
（関西福祉大学）

Ⅰ部で、見澤先生があげた「育て直し」が大きなポイントではないか。そのためにも「しっかりと子どもに向き合い」どれだけ自分を心配してくれているのかというまなざしを届けなければならない。

経済状況や不況のさなか様々な面で困っている保護者もいる。そういう中で子どもたちが育っていて、ずいぶん子ども像が変わってきている。「育て直し」は担任の先生一人では難しい。スクラムを組み、共通のまなざしのもとでおこなわなければならない。

◆◆

Q．見澤さんの話を聞いて

①一般家庭の子どもたちと施設から学校に通う子どもたちとの人間関係は。

②施設から小学校に通う子どもは、卒業後に中学校へ進学したのか。また、中学校に通うまでの小中の連携のとり方や中学校側の配慮する点など。

③こども家庭センターが子どもを家庭に返す時の基準や問題点など。

④子どもに対しての先生の活力はどこから湧いてくるのか。

A．見澤さんより

①分け隔てなく、生活指導や学習指導をしているが、本校の場合、施設から学校に通う子どもの方が多いため、どうしてもそちらに目がいってしまう。一般家庭の保護者の方が、ボランティアでその施設にお手伝いに行くなど十分理解していただいている。

②小学校卒業後、ほとんどの子どもが中学校に通っている。私たちは公立高校に行かせたいと思い指導しているが、まだまだ難しい。

小中の連携としては、年に数回、施設から通う子どもたちをテーマにした連絡会をおこなっている。学力的に厳しい状況にある子どもが多いため、小学校、中学校ともに放課後に勉強会をおこなっている。

中学校側が配慮してくれている点は、子どもへの勉強会と保護者を交えての施設の勉強会をおこなっている。

③行政上の事で詳細は分からないが、こども家庭センターなどの思いは「家庭再生」であり、その家庭だけではなく、地域での支え合いが確認されることも子どもを家庭に返す基準の一つと聞いている。しかし、子どもが家庭に戻ったことで、生活習慣や学力が落ちた事例もあり、学校とこども家庭センターの判断には差があることを感じる。

④一つあるとすれば、私たちは職員室で互いに子どもたちについて本当に語り合っている。そうやって話すうちに元気が出てくる。

◆◆◆

Q．吉田さんの話を聞いて

①一般家庭の子どもたちと施設から学校に通う子どもたちとの人間関係はどうか。

②施設入所児の約3割に障害があるとのことだが、特別支援学級に入級しているのか。

③職員が施設入所児の登校に付き添っている時間を、子どもと向き合う大切な時間と思うようになったポイントは。

④施設には情緒障害児の入所施設があるとのことだが、そういった子どもの処遇される場所はどういうものがあるのか。

A．吉田さんより

①施設の子どもたちはマンモス校に在籍している。そのため、施設でも学校でも、同じ施設の友達同士が集まってしまう状況が多い。地域の子どもたちとの関係性に広がりをもたせるとりくみとして、月に2回意識的に地域の子どもたちと交流する場を設けている。これは、施設が地域にできることという視点と子どもたちに、何とか自分たちの力で地域につながっていく力をつけてやりたいと思っている。

②高機能自閉やLD、ADHD、アスペルガーなどの診断を受けている子もいるが、全てが特別支援学級に在籍しているわけではない。普通学級に在籍している子どももいる。一人ひとりの本人の能力や親の意向などに応じたものである。

③職員が疲弊する中で、心理士のアドバイスがあった。個別のかかわりが必要な子なので、情緒障害児短期治療施設などへの措置変更も案としてあがったが、一つ踏み込んで、子どもとのかかわりについて考え、まず時間をとってみようという試みがきっかけだった。異職種とうまく連携して情報交換する中で、子どもに対して多角的にアセスメントしていくことも必要ではないかと思う。

④情緒障害児短期治療施設への措置への権限は、施設にはない。これは児童相談所やこども家庭センターに権限がある。施設で暮らす子どもたちは、家庭から引き離され、そこで一度見捨てられたような不安を体験させてしまっている。その状況を重く受け止める必要があり、それが③の子どもとの時間を見直す時の気持ちの上での大きな力になったのではないか。

◆◆◆◆